

子
婦
人



第七卷

第九號

香

第七卷第九號

目次

日本女子に對する希望	肝付兼行
奉天蒙養院	、 、 、 、
小兒の下痢	醫學士 河野 衛
幼兒の体力的遊戯について	中村五六
小供と金鑊との問題	和田 實
子供の齒	ドクトル 大屋 要作
失敗せる改良竈	白 山 生
割烹	石井泰次郎
女學校に於ける家事科に就て	河口 愛子
女子と体育	寺田 勇吉
傘屋のおぢいさん	硯 山 子
名家言論	

投稿募集

一種類 ① 伽話 本誌年々分以上三ヶ年分
 ② 一般記事 選擇の上本誌に載録せるものは
 内規により原稿料を呈す

但し右賞品は受賞者の希望に依りて會費と差引き若しくは自ら取
 らずして其指定する人に本會より直接送ることを得

一 注意 短歌は随意の用紙にて可なれどお伽話及一般記事は一行
 廿二字詰にて半紙又は郵紙に書かれたし原稿は凡て返戻致しませ
 ん此募集は期限を定めません毎月十日迄の分を其月に選評し後は
 翌月に回はし何時迄も引續いて行く積りです。
 宛名は本會へ直接御送り下さい。
 開き封で應募原稿と標記すれば三十匁迄は郵税二錢で参ります。

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する
 事なら何でもお尋ね下さい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速
 に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年
 分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登錄して雜誌を發送致
 します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會
 か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- 一冊郵税共金拾一錢
- 六冊前金郵税共六拾錢
- 拾二冊同令壹圓拾錢
- 郵券代用一割増

會 告

明治三十九年四月より同年十二月迄の會費御滞納の方は書肆弘道館へ御送附下さる様豫而申上置候處未だに御滞納の方有之是非なく今般本會より立替支拂置候に付爾今本會へ直接御納附下され度、尙帳簿整理上差岡不勘候に付此際至急御納附相成度此段御願申上候也

明治四十年九月

フレールベル會

家庭教育の必讀書

大好評々々再版發賣

東京帝國大學
文科大學教授

文學博士 元良勇次郎先生新著

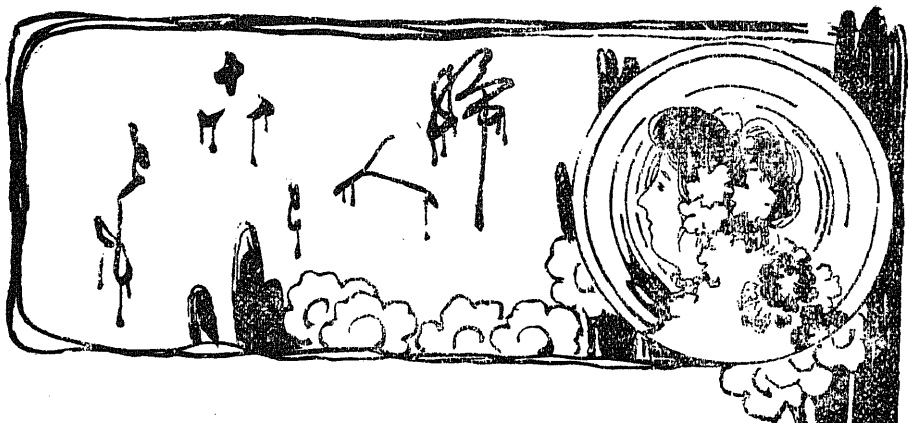
心理學綱要

心理學上に於ける博士の位置は世既に定評あり。爰に喋々を要せず、本書は、博士が、彼の宏大深甚の學殖を提げて、昨年更に歐米諸洲を漫遊し齎らされたる泰西名家の學說と博士が多年造詣せる新研究とを悉く網羅されたる大著なり、行文頗る平易にして簡明、世の心理學に通曉せんと欲する士及び教育文學宗教界に立つの士は必ず本書無かる可からざる也

洋裝菊判全一冊
紙數三百卅餘頁
定價金一圓
郵稅金十錢

文 章 平 易 發 行 所

東京神田猿樂町貳番地 弘道館



第七卷第九號

暑さに堪へ兼ねるころ、雲の漲り出づる勢ありて
 風しきり落ちたるに、柳、蓮などの葉、裏白く
 見せたるも涼し、やがて大さやかなる雨の、間遠
 に落ちたるが、後には頻りに降り来て、物音も聞
 えず。土の匂ひ來たるも、いと心地よし

(白川樂翁)



日本女子に對する希望

肝付兼行

地球の表面を主宰するものは水なり、而して陸はこれに與らずとは、これ碩學ミセレーの言であるが、海水は實に地球の表面の百分の七十三を浸し吾人の棲息する陸上を包んで居るのである、されば人類としても、亦國民としても、世界に雄飛せんとするには、自然の道理として、どうしてもまづ此包圍を破りて激浪怒濤の間を縦横に奔馳する元氣がなくてはならぬが、國民にこの元氣の充ちてゐる、國は皆振うて居るのである。即ち英國、米國、獨逸、佛蘭西、露西亞等の國々を見れば忽ち分かるべく、又國民にこの元氣のない國が概して振はぬことは即ち清韓土西葡等の諸國を見れば直

ちに分かる、均しく一國であるのに、その振不振の懸隔の著るしきこと斯くの如しとすれば、吾人はその理由を篤と考へなければならぬが、要するに何者としても、天理に順ふもの、榮え、天理に逆ふもの、衰へるといふ原則に洩れぬことで、即ち前者の盛んなる所以は、天理に順うて居る結果で後者の衰へる所以は天理に逆うて居る結果に外ならぬと思ふ。されば國土を海心に有して居る所の海國民たる姉妹諸子は抑も前者たらんと欲するか將後者たらんと欲するか、固より智者を俟たずして知るべきである。

諸子は人類としては天理に順ひ國民としては國利民福を圖るためにその義務天職を盡さねばならぬものであるが、要するに諸子が海國民として今日覺悟すべき所もまた實に國富を充實して國威を輝かすに外ならぬので、而して之を爲すには即ち海を資用して之を爲すより外に方法がないのである、然るに此事は我が海國の昔、よりの國是であ

ツたと見えて、其教は古くより既に備はつて居たやうだ、即ち我が大和男兒として日本の國民として取るべき否取らなければならぬ所の業務は吾輩の言を俟たず、夙に定まつて居つたことは種々徴すべきものがあるが、彼の毎年正月二日の夜に諸子が吉夢を獲て幸福を博せんと争ひ求めて枕に籍りる所の東京の所謂「おたから」といふ繪の如き又其最有力なるものであると思ふ。其繪は寶船に七福神の乗つて居るもので餘白には「ながきよのとをのねふりのみなめさめなみのりふねのをとりのよきかな」といふ回文の歌の記してあるものであるが、我が日本の女子を代表せらるゝ所の讀者諸子は、この「おたから」をば何と判断せらるゝであらうか、之には實に我が海國民に對する貴き寓意の教訓が含まれて居るのである、而してその寓意の要領を自詠の歌にて示せば「たから船操つるすべにありと知れ我がくにたみのちよの榮えはといふ意味に外ならぬ。たから船とは文字の示せ

る如く貨船の事で我が國民が繁榮幸福を進めんに
は、一にこの貨船を操縦して海外貿易を盛に行は
ざるべからざる事を寓意したものでらしい。
然るに貿易は國族に伴ふとの、言に漏れず、之を
海外に行はんとするには、まづ我が對手たる國々
に國威を示すの要あり、海軍即ち武力が必要とわ
るが、又其貨船自身にも渡賊防禦等のために、或
程度の武装を要するや論を俟たない、而して貿易
を營むには海陸の物産は素より勤勉貯蓄に成る所
の資本を第一とし機敏加して老練なる所の商才と
實際に巧みなる所の辨才と、變る氣候に堪へ得る
所の健康と信用を博するに足るべき徳望とを兼ね
備ふることが甚だ肝要である、さればにや寶船に
は第一に甲を被つて艀先に立ちて三稜の矛を手に
して居る所の毘沙門天王はいふまでもなくこれ武
力の代表神たるべく、第二に軀幹短小にして豊面
大耳烏巾を戴いて寶槌を把り財囊を背負うて米俵
を膝下に踏み居る所の大黒天は、これ資本の代表

神たるべく、第三に青袍烏帽、棘鬘を腋下に挟んで竹竿を把り、算盤を備へ、大福殿を置きつゝ、計算簿記に抜目なく、海老で棘鬘を釣るほとに老練なる商才を示して居る所の惠比須三郎は、これ即ち商才の代表神たるべく、またこの惠比須の棘鬘と大黒天の米俵とは海陸物産の代表品たるべしと思ふ。第四に粉面皓齒琵琶を抱いて端坐し、優美にして艶麗なる風姿に犯すべからざる氣品を備へて辨才に長じ交際に巧みなること八方美人の趣きある所の辨才(財は誤にして才は正し)天はこれ勿論辨才の代表神たるべく、また第五に肥大便腹圓頂にして毅然たる容貌を備へ、兒囊を曳きずりつゝ子福者たることを示し、且つ身體の强健なることを表して居る所の布袋和尚は、これ言ふまでもなく健康の代表神であらうが、第六及び第七なる龍眉修願の福祿壽と童顔鶴髮の壽老人とは、これ即ち其福徳と壽徳とを以て徳望を代表する所の兩福神ならんと考へられる。

古人の寓意の果して然るや否やは知るべからざるも兎も角此教訓の如きは我が國民のためには實に萬代不易の好教訓であると謂はざるを得ない、殊に之を其身其歳の吉凶禍福を占はんとする年初めの結夢の用に資するに至つては、教訓としては實に其當を得たるものであると思はれる。甚だ不遜ながら、予はかの「ながきよの」の無意味なる歌を前記の「たから船操つる」の歌に取り替へ、全國一般の家庭に於て面白く敷衍し之を國民が處世の教訓と爲し、また其種蒔手段として、初夢を結ばんと願ふ夜の前には勿論、其他四時を問はず、春夏の宵、秋冬の夜のお伽噺に之を用ゐんことは、國家の爲、予が深く希望する所である、戦後國力の充實を期するに急なるの今日、國民教育上この希望の實行よりも急なる急務は、我が海國に於て他にあるまい。故に予は教育の本は學校に在り、學校の本は家庭に在り、家庭の本は家母に在りといふ予が持論よりして、本誌の讀者諸子が國民教育

の大過渡期に遭遇したる日本女子の義務とし、天職として、また現在及び將來に於ける一家の家母として、十分此事に盡瘁せられんことを望まざるを得ない。

奉天蒙養院

奉天官立第一蒙養院と云ふのは即ち我國の所謂幼稚園で場所は奉天府四平街買家胡同と云ふ所にあり、前年より趙將軍の命によりて張提學使が熱心に經營して創設せしものなりと云ふ該院の職員は院董拔貢生董韶清(奉天人)と書記一名(清人)主任保母山口政子(東京市)保母前田新子(東京市)通譯(日本人)一人にして雜役者九人保母附下婢一人兒童附の女二名(何れも清人)あり目下の保、兒童は七才のもの三十一人五六才合せて三十一名計六十二名あり

院の構造は頗る廣大事務室保育室養生室應接室事務職員以下の宿舍等備はらざるなく室内には種々の繪畫の額を掲げ庭内にはブランコ遊動圓木等の設けありて諸般の設備に至る所なきがし如し庭内少しく狹隘に失るなきかの憾あり遊戯具は一切日本へ注文し本日到達したりとて種々の教育品あり該院は近き將來に於て保母の養成をも開始するの目的にて現に志望者を募集し願書を提出し居るもの約三十名あるも間には四十内外の婦人もあり是等年齢多きものを除き三十才内外位

までとせば半数位に至るべく提學使の意見は多く師範學生より採用する筈ならん

入院者の保育料は徴收せず元來教育費は人民を煩はさず一切官費として大に教育の普及を計るは清國官憲の方針なるが如し

通院の兒童は皆婦人附添にて場内には或る區域以内には男子の入るを許さず「男保護至此止歩閉人亦一概禁入」の揭示あり保育兒たる證票木札を帯び來る間には母たる人の附き來るものあり

主任保母山口氏は東京女子師範學校出身にして東京にて八ヶ年間幼稚園に奉職し學識經驗共に高く東京女子高等師範學校主事山村氏の推薦によりて赴任せりと聞く將來の施設見るべきものあらん

張提學使の山口氏に對する待遇頗る厚く氏が本年三月赴任の際の如き廳僚四人をして停車場に出迎へしめ着後は提學使の司署一個所を擧げて其の居住に充て厚遇至らざるなかりきと山口氏は二十日前より院内に引移り來れりと通譯たる婦人は小學校にて山口氏より教育を受けたる人にて偶然此地にて邂逅し就職するに至りしは亦奇遇と云ふ可し。



小兒の下痢

醫學士 河野 衛

毎年夏期に向ひますると大人でも小供でも胃腸の病氣に罹るものが中々多うありまして年々歳々食物の用心の仕方に就いては新聞なり雜誌なりで、種々の方面から注意せられますけれ共依然として病に罹る人が多く濱の眞砂は盡きても世に腹下り病者の跡は絶へないのであります。

一體胃腸は吾々の取る食物が消化せられ吸収する場所でありまして、吾々の體を養ふ滋養品は必ず此關門を通過しなければならぬのでありますからして、一刻たりとも之を休ませて置く譯に行かない器關であります、それ故にもしも一朝此場所に病氣が起つた場合には、どうも實に困るです、

第一食物が取れない、取つた所が勿論消化吸収は著しく障害せられて居りますから取つた食物は素通りで體外に出され、且つ其食物を取つたが爲めに病のある部分に刺戟を與へるから病氣は益々進んで來る事になつて來ます、もしも之に全然休養を與へる事が出来るならば何とか工夫もあろうけれ共そうは行かぬ、それから藥を飲むのも大抵は先づ口中から飲む、處が嘔吐が甚しいときは皆んな吐き出して了つて更に藥を受け付けぬといふ有様になつて來ます、食物でも納まつて行く間はド；かコーか都合は宜しいやうなものゝ是れも嘔吐が來るとミンナ吐き出して了ふ、體の營養はそれが爲めに益々衰へて來る、どうも實に手の附けやうのない状態に陥るのでありますそれ故に胃腸の病は治療をする上に甚だ困難であります、手と加足とかに故障が起つた場合には靜かにして置いて少しも動かさずに置いて、種々な治療方法を施す事が出来るけれ共、胃腸の方になると食物も藥

もどうしても此所を通過せしむる必用があるから
 全然用ひずに静かにするといふ事が極めて困難で
 あります。

それから胃と腸の働きを不働から健全に保つには
 先づ日常飲食物に注意して、攝生を重んじなくて
 はならぬといふ事は誰も能く知り抜いて居る事で
 ありますけれども、モ其實行に至ては誠に困難で
 あります、イクラ理屈を説いても、立派な統計を
 挙げてても、中々人の耳に入り難いものであります
 耳には入つても、自から信じて實行する人は誠に
 少い、凡て攝生の事は個人が品性を修養するの
 と同じであつて、充分に其價値を自認しなければ
 到底實行せられるものではありません、換言すれ
 ば個人の衛生思想が普及しなければいかぬのであ
 ります、吾々は御互に協力して社會國家の爲め此
 衛生思想の發達を計らなければなりません。
 それから皆様の御注意を特に煩はしたい事柄があ
 るそれは此胃腸の病に罹つた時に醫師の言ふ通り

を能く守つて頂きたいといふのであります凡て病
 といふものは單に藥を飲むで決して治るといふ
 性質のものでは無いのでありまして藥の外に全般
 の攝養といふ事が極めて大切な者であります、そ
 うして此事は殊に胃腸の病の折りに一層大切な
 であります、所が世間では何でも食はさなければ
 イカヌといふので種々な食物を妄に與へるといふ
 風習があつて中々醫師の言ふ事は行はれ難いとい
 ふ状況であります、此れは吾々の實に遺憾に思ふ
 所であります、要するに病氣は藥力と攝生の能く
 行はれるといふ事とが相俟ちて始めて治癒の實を
 擧げる事が出来るものであるといふ事を明確に承
 知して頂きたいのであります。

それから今一つ御注意を願ひたいのは、腹下りが
 甚しくて、嘔吐が頻りに起つて居る場合には時
 としては全く食を與へないで單に食鹽の入つた水
 ばかりを飲ませて置いて其外に色々の治療方法を施
 す場合がでありますコウいふ時に何にも食はせずに

苦しめるといふ苦情が持ち上らぬとも限りませぬ然し是れは實に致方がないのでありまして、食を與へて營養を計りたいのは吾々の胸一杯でありませぬすけれ共場合に依つたら止むを得ず胃腸へ何も送らずに置かなければならないのであります、丁度道路を修繕する時に其處丈は交通を遮断して人の通行を禁じて置くのと同じであつて、交通を禁ずれば自然不便を來すから不利益であるのに極つて居るけれ共完全に修理しようといふには少々の不利不便は恐んでもどうしても斷然交通を禁じなければならぬ、もしも勝手に人を通行させたならば折角治りかけた場所が片端から壞はされて了ふ何時迄待つても修繕せられる筈がない、是れと同じやうに腸に故障の起つて居る時にドシ〜飲食物而かも不適當なる食物を與へられて實に堪つたものではありませぬ、それ故に場合に依ては絶食させて療法を施す事もありますが上に申上げたやうな次第でありますから此邊をよく御承知を願ひ

たいのであります。それで私は茲に夏に多い子供の下痢に就いて衛生上注意すべき要點だけを申し上げたいのであります、赤痢や虎列拉の如きも同じく下痢に相違ないのでありますけれ共是等は特殊の疾病であります、茲には述べませぬ。そこで小児の下痢、腹下りと一口に言ふけれ共種種の種類がありまして、病の性状も亦大變に澤山ありますからして短く申し述べるといふ事は到底出來難いのであります。哺乳兒の消化障害と生長した小児の胃腸の障害とは其原因なり、症候なり、療法なりが趣を異にして居る。それから病をいものに至りても、趣を異にして居るものがある、例へば主として食物——乳が腐敗したのが爲めに病を起し、胃腸には見るべき特別の變化を來さないものがある、かと思へば一方には立派な病變を胃なり腸なりに起して居るものも隨

分多い、そして病の輕重は無論何れも異なつた事は無く、危険の狀態に陥り易いのであります、是から其下痢の

原因

を申し述べましよう、腹下りの原因は中々多い先づ飲食物の事から申しますと過食です、哺乳兒ならば乳の分量が多きに過ぎ生長した小兒なら食物を多く喰ひ過ぎる是れ原因の主なるものであります食物が多い過ぎると胃は其負擔に堪へないから充分に消化が出来ず又消化液の分泌があつても不充分で久しく停滞して居る間には腐敗醱酵を起し毒が出来て、胃なり腸なりの粘膜が刺戟せられ、消化吸収が能く行はれなくなり、食物は不消化の儘で體外に排泄されて了ひます、之れから小兒の胃は其狀況が大人のと趣を異にして居て、大人なら胃底といふものがあつて、膨れて居りまして食物の溜るに都合善く出来て居ります共小兒の胃には此胃底といふ者が、まだ出来上らずに居り

ますからして胃は稍垂直に近いやうな位置を取つて居る一つの管狀の袋に過ぎませぬから容易く嘔吐します、斯くの如く胃に溜つた多量の食物は消化不充分的儘で腸の方に送られまして此所でも亦消化吸収が充分に行はれず腸の中で腐敗醱酵を起しまして毒が其粘膜を刺戟します。

それから食物が性質を變じて居る場合、例へば牛乳が腐敗して居るとか食物の腐敗しかゝつて居るもの杯を食つた場合、殊に夏は食物が變敗し易いからして注意しなければなりません、牛乳は随分不良品が多く、ありましてタトへ不良品でなく共我國の如く牛乳取扱の不完全な所では腐敗し易いのは知れ切つた事柄であります、

それから生水小兒は好んで水を飲みたがる、純良な水なら左程に害も無いが此純良な水を得るといふ事が甚だ困難である、それから氷、氷にも細菌が居るからイカマ譯であるが主に之を多量に飲むが、爲めに胃の粘膜が寒冷に依つて刺戟せられて

茲に加多兒を發するやうになりませぬ。

その次には身體に寒冷が働いた場合、例へば寒む氣に當るとか、雨に逢ふて濕氣に當るとか、寢冷えをしたとか腹や手足が寒む氣に逢ふた時は往々胃腸の障害を起します、夏風を引くといふのは重に寢冷えでありませぬ暑いが爲めに布団からもぐり出て裸體の儘で寐て居る間に身體が冷える或は風の吹き込む所に寢かして置くとか或は襦袢の濕つたのに氣が附かずに居る間にその濕潤の爲めに身體が冷える、或は氣候が悪しくて、温度の劇變、雨天が続くと、凡てそういう場合には胃腸の働きに影響を及ぼし消化に必要な液の分泌が妨げられ、胃腸の動き振りが鈍つて來まして遂に下痢、惹起すやうになります、其他住所の不潔濕潤光線の射入不充分であるとか、身體の不潔體温調節の不完全例へば衣服を多く着せて厚衣をさし過ぎると汗が多量に出て其爲めに身體が濕潤せられますそれから小兒の取扱方の不完全である等凡て間接

直接に下痢の原因になります、それから小兒の玩具に注意しなくてはなりません、兎角そんな物は不潔になり易いもので、小兒は何でも好んで口に入れたがるものであります、不潔な所に落ちた玩具杯をなめると往々腐敗したものを口中に入れる事になりますから殊に夏期は氣を附けなくてはなりません。

果物には市井に賣つて居るものには腐敗に傾いた品が中々多くありますから、餘程吟味して掛らなければなりません。

菓子類に至りても餡の入つて居る品は可成用ひないのが安全であります、御承知の通り餡といふものは腐敗し易い物でありますから夏期は危険であります。

又それから稍や生長した子供になると刺味を食はせませぬが此夏の刺味といふものは往々病氣の源になる事がありますからいけません。

それから飲食器物の清潔法が不完全な爲めに下

痢の起る事もありません、それ故に人工營養——母の乳を飲まないで牛乳其他の營養品で養育せられて居る小兒は殊によく胃腸の障害を發するものであります、之れに反して母の乳で育てられてある小兒には胃腸の病を起す事は人工營養兒程多くありません、母に病のある時或は母が精神に感動が烈しく起つたり、母に病のある時或は母が精神身體を過勞した場合は食物の不足の時にも乳兒の胃腸に病氣を起します、それから早産兒とか貧血又は腺病質の小兒や佝僂病——佝僂病は是迄日本に無いと謂はれて居りましたけ共近頃富山縣下の多數にある事が發見せられました——に罹つて居る小兒杯はよく胃腸障害を起すものであります。

以上ザット申上げたやうな譯で胃腸の障害——嘔吐下痢を來すのでありますから——殊に夏期には餘程注意しなければなりません。

小兒の狀態症狀

は如何であるかと申しますると哺乳兒であるとき先づ嘔吐を起しまして飲んだ乳は皆吐き出して顔の色が蒼白となり、好んで乳を飲まなくなり多くは不機嫌で、不安の状となり、啼き時としては搐搦を發し、それから大便の色が變つて綠色を帯び、臭氣を持つやうになり、顆粒と謂つて丸いツブツブが雜つて或は鼻汁のやうなドロドロした粘液を混じて居ります、それから腸が平素よりも膨れて居る、時としては熱の出る事もありません、又は全く熱の出ない事もありません、一定して居りませぬ、甚しくなると呼吸の數が多くなり手足が冷くなつて來るやうな事があります。

それから場合に依りて、嘔吐を發せずして、下痢が甚しく、一日に五六回も下痢し、多くなると二十回位に上る事もありません、小便の量は其の爲め大變に少くなつて來ます、大便は後に、丸で水の如くになり、粘液が混して居つて、中に黄色な消化せられない塊を持つて居ります。

生長した小兒であると往々初めに三十九度から四十度の高熱を起し、不活潑で、元氣が無く夜分よく眠らず、怒り易くなり、舌は眞つ白くなり、口に惡臭があつて、矢張り時々嘔吐を催し下痢します。

それから極く性質の悪い下痢症になりますと嘔吐下痢が中々烈しく、暫時の間に體力が衰へて、大便秘は非常に惡臭を放ち水様で顆粒と粘液を混じ飲めば忽ちに吐き、何を與へても更に受付けず而かも渴が甚しく、口中、口唇は全く乾燥し、精神は全く朦朧となり、頭を振り、體を動かして苦悶し夜分全く眠らず、それから高熱を發し、後には手足が冷くなつて顔面蒼白となり、口唇は紫色に變じ、呼吸が苦しくなつて來ます、眼を見るとボヤンリとして光輝が無くなり、そうして眼玉が落ち込んで來て、小便が尠くなり全く昏睡の狀況に陥つて了ります。

それから口の中には鷺口瘡といつて白いツブツ

ブの斑點を用ひまして是れも後には一面に眞つ白くなつて來ます、下痢が烈しい爲めに肛門の周圍はたゞれて眞赤になりて來て遂に潰爛を起して來ます。

そこで甚だ複雑した述へ方になりましたが要するに小兒の下痢といふものは輕いのもあるけれどもややもすると重症ものに轉じ易く、今日少しの下痢位であつたものが明日は急に様子が變つて生命の危篤に頻するものが中々に多く殊に夏期には性質の悪い下痢症が流行する故に、小兒の下痢は大人のと餘程趣を異にして居て中々恐るべきものであるといふ事を申し上げたいのに過ぎないのであります。

然るに世の中には、小兒の腹下りと言つて輕視し治療も受けず放置し、よし治療を受けても飲食物其他の攝生に注意をしないが爲めに往々俄に重症となり、手の附け様のない状態に陥らせるものが甚だ尠くないやうに見受けれます、是れは誠に遺

憾千萬な次第であります。

豫防法

そこで胃腸の障碍を起させないやうに愛児を保護するには常に先づ第一に飲食物に注意し哺乳兒であるときは、母の精神感動身體の過勞其他の疾病ある時は先づ是れを治療する事を怠つてはなりません、それから殊に夏期には乳房を清潔に保つ事を勉め、哺乳の前後に廿倍の硼酸水で乳房を丁寧に拭ひそれから小兒の口中をも注意して飲んだ後によく拭いてやるやうにし、牛乳を用ふる場合には牛乳の消毒は固よりの事、之を容れる器具をよく消毒し、清潔に保ち、哺乳の時間を可成一定し、妄に多量に與ぬやうに注意しなければなりません、乳は飲まざなくてはイカヌといふので無暗に多量に飲ませ其爲めに胃腸障害を發するのが中々多く見受けられますが是れは大なる誤りであります、一體胃の中には食物消化の役を營む胃液といふものがありまして其効能は一は消化の働きを

なし一は乳汁の腐敗するのを防ぐ作用のあるものであります、そこで今適當の分量の乳が一定の時間に限つて胃に入つて來れば此二つの働きは完全に行はれる筈であるのが、此規則を破つて多量の乳が不規則に入つて來ると乳の腐敗を防ぐ作用のあるものが費消せられ、充分なる消化を受けざるものが腸の中へ送られるから又此所でも吸収消化が不完全になり、容易に腐敗して下痢を惹き起すに至るのであります。

それから常に襦袢の取換に注意し、決して濕つたものを永く放置しないやうにし、殊に夏は汗が出て、爛れを來し易いものでありますから常に清潔にする事を勉め、妄に厚衣をさせて多量に汗の出るやうな事を避けなくてはなりません、凡て老人は小兒に厚衣をさせたがる、癖のある者でありますが是れは甚だイカヌ事であります。

それから寢冷えをさせないやうに氣を配り、常に寢る時に腹巻をしてやるのが宜しいです。

夏は度々湯に入れて、町寧に身を拭ひ、清潔な衣服を衣せて置き、凡ての取扱法に注意しなくてはなりません。其の外玩具に注意し、不潔な物は捨て、了ふのであります。それから室内の清潔、光線の能く射入するやうにし、飲用水に注意するのが肝要であります。

菓子類藥物等に至つては餘程注意して吟味したもの外妄に與へてはなりません。氷水の如きは中々危険でありますから可成與へないやうに習慣を作らなければなりません。

小兒の腸下りと謂つて軽く見て何にもせずに放置して置く人があります。是れが大なる誤まりであつて小兒の下痢は殊に夏は實に恐るべきものであります。初めこそ輕いけれ共急速に危険の狀態に陥つて如何に手を盡しても其甲斐がなく遂に生命を奪はれるやうな事に立ち到るのは實に吾々の多く見受ける所であります。それ故に少しでも下痢があるとか乳を飲まぬとか、吐嘔があると

かいふ場合にも胃腸の障害が起つて居るのであるから直に醫師の診を求めなくてはならぬ、大人では少しの下痢位は攝生の如何に依つては、左程重くならぬ事もあります。共小兒では中々そうは行かぬ、趣が餘程ちがつて居りまして一日の中に極めて驚くべき狀況に陥り易いものでありますからして餘程眞面目に考へなくてはなりません。

以上私の申し上げました主旨は小兒の下痢といふものは實に恐るべきものであるから殊に夏期には平素から小兒の全般の看護に注意しもし不幸にして病氣に罹つたら直に手當を施さなければならぬといふに過ぎないのであります。(婦人衛生雜誌)

▲女より男の化粧時間が長い 西洋では近來女が化粧するよりは男の方が多く化粧をする女は束髪の上へ帽子を戴きさへすれば何處の席へ出ても帽子を脱らないで済むが男の方は外に出る時は髪を丁寧に櫛り毎日髭を剃り洋服の下の着如きも毎日取替ると云ふ有様で男が鏡の前に立つて居る時間は確かに女が鏡に向ふて居る時間よりは永くかつて居る(歐洲新歸朝者山林局經理課長内藤確介氏の談話)

幼児の体力的遊戯に就いて

中村 五六

兒童の体力が増進して唯靜かに遊ぶ丈では満足が出来ない様になると今度は自己の体力のあらん限りを發表して快とする様になる。此時之を満足に遂げさせる最も恰好な遊戯は一般に次の様なものである。

鬼ごつこ、駟けつこ、相撲、頭押し
坐り相撲、綱引き、棒押し、

是等の遊戯が最も盛んに行はれるのは餘程後であるが就學前の幼児にも多少は表はれて來るものであるが危険の生ぜざる限りは相當に獎勵して遣らせる必要がある。体力を増進し忍耐力を強める爲めには非常に利益あるものである。

幼児間に行はれるもので最も適當であらうと思はれるのは鬼ごつこ、駟けつこ、相撲、綱引の數種で其中でも變化の多い鬼ごつこは一番興味があ

る様である。そして是は又幼児の發達程度に應じて種々なる形式を採ることが出来るから尙更都合よき遊びである、今之に就て注意すべきことを述べて見ると、初め三四才の子供を相手にした時は誘導者自ら諸所に逃げ廻つて、幼児に主として逐はしむるのが最も興味が多い。そして子供の様子を見て所々で休みがてら捕まらせては又逃げ出すと云ふ様にするのが必要である、少し進むと之を反對にして主として誘導者が鬼となることが却つて興味の多い様になる。此時には子供の体力に應じて誘導者の速力を加減して何時も全速力で譯もなく小供を捕へると云ふ許りでなく、主として子供の体力を充分に發表させると云ふことに心掛けねばならぬ。段々子供が進歩して六七才となると友達同志で盛んに之を行ふ様になる。此時には各自己の全力を盡くして走り行くもので筋肉を練り行動を敏活にする効力は大きなものである、が併し此時には之を放任して置いたのでは漸次種々

な弊害を醸して来る。例へば体力の弱いものは一度鬼になつたら生涯浮かむ瀬がないから終には此遊戯が倦になつてしまふ、又子供は割合に感情的であるから自分のすきなものは逐ひかけるが氣に入らないものは捕へないと云ふものが出来る。又時には自ら鬼になることを好んで殊更に捕へられ様として走らずに居るものがある、斯様なものが出来る。折角の遊戯は何時も不興に終る様になる遊戯の終を不興ならしむることは教育上非常に悪い習慣と思ふねばならぬ。

是等の弊害なからしめ様と云ふには付添ふ保育者の指揮誘導が必要である。

次に子供の最も喜ぶ遊戯は相撲であるが是は土地によりて一概には云はれない、常に人の相撲する所を見たことのないものは自然此種の興味もなものであるが、之に反して常に人の相撲して居る所を見付けて居る子供は早くから此興味を以て居る。蓋し子供には自然の必要なる遊戯と見て差

支ないとして、体力を力強く働かせるための遊戯としては此上ないものと云ふことが出来る。併し体力を充分に使ふことが出来る爲めに動もする種々危険を生ずるをがらないでもない、勿論單に相撲だけが原因で手足を挫くとか傷をこしらへると云ふことは極めて稀であるけれど一生懸命に相撲ふために稀には危険の事もないではない。殊に子供は今迄の遊びが急に變化して喧嘩となることが多い、少し油断をして居る中に眞正の組打ちを始めることがあるから注意しなければならぬ、又此遊びは着物を汚すことの多い遊びであるから土俵はなる可く完全な砂盛にしなければならぬ、土俵が完全なれば従つて危険も少ないものである。人によると相撲は幼兒には少し危険で不適當であるといふものがあるが吾人は然程とは思つて居ない、勿論大きな子供の様に眞に相撲の技術を競ひ体力を争ふと云ふのには不適當ではあるが幼兒が彼等自身の娛樂に供する活動の一形式として模倣

的にやつて居るのには然のみの危険を來すものではない。尤も是も監督者次第の話で行司が甘く誘導してさへ行けば然のみ危険もないし子供も大に喜ぶものであるが之に反する場合即ち適當な誘導者が無いと云ふ場合には却つて種々の危険もあれば喧嘩打合ひの種子となることは少くない、注意しなればならぬ。

驅けつて、是も子供には適當な遊びで運動會などに少しかぶれた子供は年中遣つて居る概して幼児期の終頃に盛んに現はれるものである、が幼児に此遊戯をさせるのに注意しなればならないことは幼児の驅け方である。一体幼児が驅けつて走るときには相手の競争者には多く注意するが走る場所には余り注意しないものであるから、ともすると小石や棒片に蹴いて顛倒することがあつて可なり危険である甚だしきは家の破目や杭などにぶつかる迄知らずに走つて行くことがある。保育者は是等の危険のない様に注意しなればならぬ。

此外に幼児にも適するのは綱引であるが是は普通團體的に行ふ様な大仰なことは出来ない重に一人と一人で行ひ時には數人が一人の保育者を對手に庭中を牽き廻はる位が頗る宜しいのである。尙以上の外に棒押し頭押し腕引きなど云ふのがわるけれど何れも幼児には不適當のものであるから略して置かう。

▲何色を古代は好みしか 我國の古代では多く白色を好んだものであるこれは白は清淨潔白を意味するからである故に白いものを見れば瑞祥として朝廷に献上して居る白龜、白雉、白鳥、白鹿、白鳩、白雀、白馬、白狐、白鷹、白狗、白蟻、白蠟、白鶴、白鼠の類であるこれを出した國は國司郡司及是れを捕へた人民に至る迄或は祿を賜ひ或は叙位授爵の御沙汰がいつたものである旗に關しては赤が用ゐられ聖武天皇天平十三年に始めて赤幡供御物を司る各役所の前に建て、其標とされた白旗を擧げるは投降の示しとなつて欽明天皇の時新羅征伐の時も其例がある(文科大學中尾謙吉氏談話)

小供と金錢との問題

和田 實

小供に金錢を持たすことが害があらうかなからうか、云ふ問題や又持たす必要があらうかなからうかと云ふ問題は疾くの昔に一時教育熱心家の間に喧ましく論ぜられたことであるが其結果は例によつて例の如く有耶無耶の間に葬られて充分の解決を見なかつた爲めにや近頃又々此問題を擔ぎ廻はつて兎に角と議論立をするものがある様で二三の家庭雜誌や婦人雜誌にも是に關する記事を見る様になつた、時には可なりの新聞にさへ抜書きなどされて居るのがある、そこで記者も一應の解決を試みて新進會員の御參考に供さうと思ふのである。

併し此問題は如何にも莫とした問題で一言で解決を與へると云ふには少し操輕に過ぎるので先づ第一に問題の意味を分拆して見る必要があると云ふ

十八
 譯は問題中の小供と云ふ意味が頗る不定であるからである。一体小供とは何歳位のものを目指すのか一寸判り兼ねる生れた許りの幼児も廣い意味で云へば小供に違ひないし中學の上級生と云つても十七や十八歳位では小供と云ふ方が適當であらうし、此問題に云ふ小供と云ふのは右の中の何れを話すのか判らぬ。若し學齡未滿の幼児を指しての問題ならば是は問題にはならないので誰れに云はせても眞倒に幼児にも金錢を持たせよ幼稚園の幼児には小遣錢を自ら出納せしめよなどと云ふ人もあるまい。して見ると此問題にある小供と云ふのは少くも七八歳以上の小供に就て云つて居るに違ひない。因つて茲では小學校兒童並に中學校生徒の大部分を指すものとして論ずることに仕様。次に今一つ問題の意味を吟味して置かなければならないのは小供に金錢を持たすと云ふ其意味は單に手にすることを云ふのか或は之を玩ぶことを意味するののか或は自らの入用に應じて小遣錢を出納

することを意味するのかわ若しくは此三者を悉く含むのかわ其意味が一向不定であるが單に手にするのと之を玩ぶとは何うも此問題の範圍外とするのが至當だらうと思ふ。

そこで愈本題に入るが前にも云つた通り同じく小供と云つても其大きい方と小さい方とは年齢に於て非常な差であるから之を一概に論ずるのは適當でない小さな時は斯ふ大きくなつたら彼様と區別せらる可きである。即ち始めと終りとは其扱ひに於て大なる差違を以て居て差支ない筈である。否雷に差支ないのみならず、斯様な差違を付ける必要があらうと思ふ。七八歳の尋常一年生なる兒童に對して規定した事を十七八歳の成童にも當て箝め様と云ふのは無理に違ひない。倍て斯様に小童と成童とで金錢に對する躰方を異にしてよよいとしたら其は何う云ふ風に違へる可きかと云ふには是は金錢なるもの終極目的から割り出さなければならぬ。即ち人間と金錢との關

係から割り出されなければならぬが併し是はもう議論する迄もなく金錢を離れては殆んど人生なしと迄も云はれる今の世の中であるから假令始めから自由を持たすことが出來ないにしても成人の曉には自由之を扱ふて過ちのない人にならせなければならぬと云ふ必要のある爲めに相當の時日の間は練習的に持たせなければならぬと思ふ。

人或は親の脛を噛ちり親の金で暮して居る間は自ら金錢を手にする必要がない様に云ふ人もあるが是は却つて頗る危険な頑説と云ふ可きである。斯る人に教育された結果は一朝自ら金錢を自由にす可き時が來ると共に不精算と不しだらとで手の付け様もなく家經を紛亂させて仕まつるものが多いのである。畢竟餘りに嚴重なために金錢を如何に扱ふ可きかと云ふ覺悟と練習とを得させる機會をも失して仕舞ふたゝめである。故に小供には成人となつて社界に出る前に金錢取り扱の實地練習をさ

せる爲めとして多少とも持たせる必要があるといふはねばならぬ。

既に持たせる必要があるとしたらば其は成る可く早い为宜からうか其れとも成る可く晚いが宜からうかと云ふ問題が次に起る疑問であるが併し早く持たせると云ふことは吾人は餘り賛成出来ないものである。或は亞米利加流義から云つたらば矢張り話せない天保思想だと笑ふかも知れないが、何うも日本人の思想、殊に君子人としての鷹揚な氣風を風彩の中に羨けたいと云ふ吾々の希望から云ふと何うも早くから殊更に持たせて殊更に金錢の方面に兒童の思想を牽引し様とは思はないのである。それだから吾人は何れ持たせなければならぬのであるが餘り早くから持たせたくはないのである。然ればと云つて又或論者の云ふ様に、なるべく晩く持たせることが必要である。金錢の出納は大人でも随分困難なものであるから逆も小供などに甘く一定の範圍内で賄ふことが出来るもの

でないから一層のこと成る可く晩く持たす方がよい其方が危険もなく過もなく萬全な方法であるといふ意見に従ふことも吾人は賛成出来ないのである。今迄の教育の方法としては兎も角、今日以後の教育殊に益金錢と人生との關係の密接し來る今後の教育に於ては何うしても此方面の實地練習をも教育時期の中に充分經驗させると云ふことは極めて重要な訓練事項であると思ふ。故に餘りに晩く迄金錢を持たせないと云ふことも決して教育的ではない。

要するに吾人は適當の時期が來たらば相當に金錢を持たせて差支ない。否な持たせると云ふのが寧ろ教育的であると思ふのである。是に於て讀者は然らば其適當なる時期とは如何なる時ぞ」と反問されるだらうが是が頗る難問題である。是が誰にでも直に判るなら誰も本題の如き質問を出す人はあるまいけれど世の多くの父兄には是が一寸判らぬのである。判らないからこそ本題の如き問題が

起つた譯である。餘事は借て措いて、吾人は是に就て何う云ふ考を持つて居るかと思ふ。即ち一つは小供に金銭を持たせ可き時期は決して一時には來ないと云ふこと、一つは其興へると云ふことも一時に格段に行はる可きものでない即ち今迄金と云ふことを殆んど知らせもせず居たもの若しくば少しも其用方取扱方を知らしめざりしものに一時に自由に取扱はす可きものではないと云ふことである。兎角議論とか人爲とか云ふものは格段に段階を付けたがるもので、昨日迄は悪いとすると之を見るのも悪い様に云ふかと思ふと、今日は善しとして全く自由に放任すると云ふ様な、不自然な大變化を來すことが多いものである。小供に金銭の問題も多くの人の議論を眞正直に實行すると大抵はこんなものであるが、是は教育上害ありとも益のない話である。故に子供に金銭を持たすことも或時期に於て急に變化して

小供の自由に任す可きものでないものである。即ち之を教育的に考へて如何にせば兒童をして過なく金銭を自由に支配し得る位置に達せしめ得るかと思ふ問題が研究されなければならぬ。而して吾人は之を左の數段階に分つて考へるのが至當だと思ふ。

一金銭と云ふもの知らしむる時期

二委託的に之を扱はしむる時期

三或制限の本に練習的に自由に扱はしめて其結果を監督するの時期

四全く自由行使の時期

金銭の何物たるかを知らしむるの時期は可なり長く續くもので幼兒期の全部と兒童期の始めとを含むのが當然で普通尋常二年級を終る迄位は此時期の中と思はねばならぬ故に委託的に「お使に行つて来てお呉れ」と云ふのも家庭の事情の許す限り先づ尋常三年生になる迄はさせたくないと思ふ。併し是は小供の個性にも因るもので必しも一様に

は云へない。家庭の事情に因つてはもつと早く持たせる様にもなり、小供も早くから要求する様になるものである。又家庭の事情は同じでも子供の發達の好い方即ち惻憐な小供は何うしても早くから金銭を持つことを要求する。が併し今日中流以上の家庭ならば以上述べた時位迄は持たせないで置きたいし小供も要求しない位に極めて鷹揚に育つことが出来ると思ふ。是より早くは何うしても不利益な方が多い様である。

又之に反して小供が尋常三年生にもなつて學校では盛んに金銭の計算を遣つて居り小供は金銭に興味を持って之を取り扱ふことを喜ぶ様になつて居るのに強いて錢を持たせないのも悪いことであり無益なことである。勿論此時期とても始めの頃と終りの頃とでは委託行使の程度に難易の別はある可きであるから八九歳になつたからとて直に六ヶ敷く取り扱ひ方を任せる必要はない始めは釣錢を要さぬ様な簡単な買物から始めて漸次思考と意志を

要する扱ひ方を托する必要がある。斯様にして漸次に高尚に進みつゝ此時期は凡そ兒童の十二三歳即ち尋常五六年の頃迄續く可きである。

次に兒童の高等小學又は中學に入る様になつたらば第三期に達したもので條件付自由行使に任せて側より監督し忠告して正しき取り扱ひ方に慣れさせなければならぬ。そして自己一人の所有財産の取り扱ひ方に慣るゝに従ひ時には他よりの預託金等をも適當に處置することなどより融通貸借に關する正しくして健全なる覺悟を得しめ實際の取り扱ひ方に慣れしめなければならぬ。

斯くして此時機の練習は中學の終り頃迄は續くものであるが此中に充分の練習が出来て活社界に出て後金銭的行動に誤りのない様にしなければいけぬ。然るに世間の父兄は嚴にすると云へば一錢も自由にさせないのを以て是とするか然もなくば寛にするのと全然放任して顧みないのが多い。誠に非教育的な方法と云はねばならぬ。兒童の發達は

徐々であり不斷である。絶えず徐々に進歩して行く兒童の性質に應じて教育し様と云ふには矢張り徐々と長い間に目的點に達せんことを勉めなければならぬので一概に彼は未だ小供だ錢を持たず可らずと云ふ譯には行かないのである。

上杉憲山公の言に

女房と云ふは、喻へば朝顔の蔓の如く、夫は垣の様なものにて候、此垣にすがり申さず候ては、花咲き實のり候事は之なく候、垣にはなれ候へば只草むらにとまり人の詠めともならず、みす／＼花も咲かず果は牛馬の爲ゆに踏み散らされ又來る年に咲くべき種もなく、惜しき花の色も一年切りにて影も形もなくなり候ことに候、されば又夫は此花を愛して水を注ぎ露を含ませ取り育て、花を咲かせ飽かずながめて纏て散り果て候へば、又來る年こそ見むと種を取りてかこひ置き候へば、幾年も同じ咲き分け綻り結、それぞれ色を失はず、行末目出度花咲き榮え候事に候、此心を思ひ遣りて、夫は女房に情あり、女房はもとより夫を大切に於て夫婦睦しく候へば其子孫繁昌し長く孝を務め亡き跡までも、由々敷帛はれ候ことは、我人も願はしき事には之なく哉

子供の歯

ドクトル 大屋 要作



人齒生育の機能を發する端緒は、胚胎後第七週日より始まり顎骨は胚胎後五週日にして化骨作用を始め、乳齒の發生は生後約六ヶ月より芽出し、約二年半に至れば悉く整列します、勿論時々發生の順序に差異はありますが、通例下齒の發生は上齒よりも數週日早いのが常です、先づ下顎の中央切齒出齦し、次に一週若しくは一二ヶ月を経て、相對する上顎の中切齒が芽出し、次に下顎側切齒上顎側切齒、又第一白齒及び犬齒現はれ、終りに第二白齒が發生して、上顎下顎都合二十で乳齒を完成するのであります。

往々變則の發生を認めることとあります、それは

小兒の體格の羸弱な爲めで、普通の發育した小兒ならば、發生期には唾液分泌も近邊するに隨つて増加し、假令些少の不眠、僅少の食欲缺乏、輕微の口内増温を來たすにもせよ、敢て患者を誘起するものではありませぬ、又小兒自身も口腔内に指頭を押し入れ、或は衣類等を咬んで其不安の醫すのが通例であります、之に反して發育と吸収との間に緩急遲速を生ずる時は、刺衝を起して最も劇甚の症状を帶ぶるともいいます、假令ば腦脊髓系でも侵されると、不安不眠頭痛搐搦、又呼吸器系なれば咳嗽、加答兒、氣管支炎、肺炎を發し、消化器系に於ては惡心嘔吐食欲缺損、下痢、又皮膚の變はれし場合には濕疹、疱疹等を發することもあります。

要するにこの發生期は小兒の大厄期でありまして、此期に於て搐搦、小兒霍亂等の爲めに生命を失ふ數は、枚舉に遑なきばかりです、仍て此期は兩親の最も注意すべきときであります、切て安全に乳

齒が發芽を終りたる時は、懇切なる齒科醫に依頼して、充分の診察を乞ひ、若し構造不全又は缺損部があるなれば、手後れなく完全な治療を受けねばなりません、其治療の主眼とするところは、永久齒の發生まで乳齒の腐蝕の豫防法であります、又齒科醫の注意すべきことは、治療の際に小兒をして苦痛を感ぜしめざるやうにし、齒牙の治療は決して痛いものではないとの觀念を小兒に抱かしめ、何時にても喜んで治療を受くるやうにせねばなりません、兎に角小兒の齒牙腐蝕豫防法は兩親の大責任と存じます、且つ常に齒牙を清潔に保つことを教示し、一年に二三回は必ず懇切なる齒科醫に診察を乞ふことも必要であります、若し又充填を要する時は、永久齒とは異ひ煉物の材品で充分です、俗に云ふセメント、ゴムなどを用ひてよろしい、金屬などを充填し長き時間を費やして、小兒に倦厭を與へる必要はありませぬ、世には乳齒に金充填又は他の金屬充填をする齒科醫もあり

ますが、それは乳齒の如何なるものなるかを知らぬ故であると思ひます。

第四年に至りますと前齒の間に少しく分離が始まりますが、其分離は益々増加して参ります、つまり永久齒が正當なる方法を以て排列し、口内に來ることを示すので、若し此の分離が行はれざるときは、永久齒は適當なる位置に排列することが出來ないのであります、又顎骨の後部には永久齒第一大臼齒の發育する部位を作り、またかくて約六ヶ年頃より前齒四個は容易に動き始め、此時から乳齒脱落し永久齒の發生期となるのであります、此乳齒の抜ける時期の到來に對し兩親は齒牙に注意を傾け、適當なる時期には猶豫なく乳齒を抜去し、永久齒に正當なる位置を與へるやうにせねばなりません。

併し此診斷法は一定の法則がありません故、齒科醫も充分經驗ある熟練者に依頼する方が安全であります、假令ば小兒の前齒が少し不正列でいゝあ

ると、永久不正列になりはせぬかの懸念より、注意をし過ぎた結果として、齒科醫に依頼して四個の前切齒に充分の位置を與へんとてまだ時期の來らぬ乳犬齒を抜き去るやうな事が往々あります、其結果切齒四個は正列しても永久犬齒を容る、餘地を失なひ、加之顎骨の發育をも停止し、第二大臼齒の發育の爲に、後方から壓迫せられ、犬齒は全く齒窟外に發生し、終生見苦しき形狀となる故に假令前齒が不正列でも、十一才頃までは決して乳犬齒を抜去してはなりません、造化の妙工は障礙物の存せざる限は、必ず排列を完成するものであります。

以上述べ如く乳齒の發生期及永久齒の發生期は最も複雑なもので、且つ小兒にも最も危険の時代でありますから、父母たるものは深く注意を拂はねばならないのであります。

失敗せる改良竈

白山生

久しく尋ねなかつた友の新妻との新世帯を麴町に訪ふた。理想の妻を得た主人公のいつもにこゝとして居たのに引かへ、今日は何となく眉のあたり八の字のあと見ゆるさへ不思議なのに、よく笑ふ妻君の聲も聞えず顔も見えずやれ／＼之では折角汗水垂して訪問したかひもなかつた。やはり之は獨身どうしのうちかなどと考へながら、無さたの挨拶もそこ／＼どうやら氣になるので

「君けふはかげんでも悪いのか」

「なにどこもどうもないが」

苦笑して暖味の答

「まさか仲が好過ぎてもあるまいが」

とそこへ妻君が茶道具片手に

「どうも失禮いたしました久々の御出に御茶も早速差上られずすみませんでしたおへつつひの悪

速差上られずすみませんでしたおへつつひの悪

い爲火種もとれず御湯もなしでついまこゝ致しましたの」

と云ひ乍ら主人公の顔を斜に見つめて

飛入の自分には一向に要領を得ないが兎に角何か事件があつたらしい。それとも御自分の不手際をへつついになすりつけてか、それにしては主人公

の苦笑、妻君の目つき、さて面沃な、一層短刀直入にと

「奥さんおへつついが云ふ事を聞かないのですか大分おもしろそうな、御話らしいですが御伽話の種に一つ伺はして戴きたいものです」

と云ふか云はぬに

「どうかそう御ひやかしになりませんで」

と笑にまぎらすを元々親しき友の間とて主人公今は云はではと觀念せしものか

「イヤ飛んだ失策をしたのだまわ君聞いてくれ給へ實はこゝへ引うつる時今迄のが安物で間に合せてあつたのだからと一つ奮發している／＼見

せてあつたのだからと一つ奮發している／＼見

末之ならぬ必ずよからうと獨りぎめで神田橋電車停留所傍の山石商店の改良竈と云ふのをかつたのだそして其引こした夕方すぐ燃して見た處一向に燃えない臺所博士の號を送つていゝ程の年寄がしてもだめであつたが、兎に角其日は新らしいので慣れない爲だらうと先づ皆がこれで骨折損もこぼさずに濟んだか、二度が三度となり四度となつても一向に燃えない。飯はぐぢやゝに出来る、今迄二十分もかゝればはつて置いても沸騰たつたものが三十分付さりで漸くと云ふ始末、下女には好く行ず妻がけむい思して汗流てやつてもしまいいにはぢれてしまふ。どれ自分でも僕がいるゝ理學作用を應用し風穴を大きくして見たり小さくして見たりするが矢張りだめ。とうゝ竈が不完全と結着した。そこで山石商店へ談判して此通りだから引取れと云つたがいろゝ理屈をつけて引取らない。そこで毎日ゝ竈で難儀して居るのだ。元々妻は

体裁はどうでも燃えさへすればいいのだから今迄通りの安物で澤山だといつたのを僕がなんでもと云ひ張つて買つた處が此始末さ。それで御飯はまづい時間はひだと云ふので、毎朝大こぼしなのが丁度一週間になる。今も朝飯漸く濟したが誰も手を出さないから僕がつきさりで飯焚き男になつたのだ、馬鹿ゝしくて腹も立つがしくじつたので困つて居る處なのさ」

聞いて見れば氣の毒でもあり可笑しくもあるが兎に角山石商店たる商人の不徳にくらしく

「そりや君大難儀だらふ其商店どしゝ攻撃してやり給へ、そんな實用に適しない物を賣つてごまかさうとするのは實際体のいゝ詐僞だね」

「おやゝ御話にきゝとれて折角のお茶を水にしてしまつたけれどどうつかり御熱いのを願つて火焚を申付つては大變奥さんなまぬるでよございますからどうか」

と云へは一座笑ひ出して主人公の八の字もうすら

ぎ妻君の目もにらまずなつた。

やがて辭し去らふとすると妻君

「まわ久々での御出御ゆるりとなさつて下さいませ

し理學者の焚いたごはんも一度は召し上つて御

覽下さい奥さんへの御土産話しにどうか」

主人も共々

「まわ久々だいいぢやないか竈も實驗して見てく

れ給へどうにかなるまいかしら、ねえお静釜を

少し持ち上げた方がよく燃えたね」

妻君ツンとして

「私理屈はどうか存じませせん宅では近頃理學者を

ごはんたきに一人頼みましたからをも安心して

居りますの」

主人公閉口して

「君毎日これだ。これからは何か買はふと云ふと

所天の竈ですかで御流れさへ、」

「僕もうかくして飯焚候補者に見立られると大

變まづ今日は之で御免蒙らふ君之にこりて突飛

な改良はよし給へ奥さんもあまりいぢめないで

下さい竈はかけがいがいくらも買えますが旦那

様いぢめてはしては取返しがつきませんから、

まわく」

又しても一座の笑聲をさく歸路につきけり

* * * * *

改良竈には特許を得たるもの既に數十種ありて

何れも相當の特長を持てる中にも一般に經濟的

なるは何れの竈にも共通の利益なりと聞き居りしに

此山石竈は時間にも燃料に於ても少しも經濟

なる點はなく搗て加へて焚き始めより終り迄付

き限りに傍にありて世話をせざれば一向に燃えず

一旦燃え付きたる薪も眞黒くなりて消ゆるを常と

し、唯善く燃ゆるは木葉のみなりと云ふ。誠に不

思議なる竈と云ふの外なし、而も商店は他品との

交換も受引かず、始めの誓言にも背き言を左右に

して引き取りもせずとは何たる不徳漢にや夫れに

しても、實用新案第一七八六號と名の打ちあは

果して實際の特許なるにや將た山師の世人を眩ま
さん手術にや今後改良竈を買はん人は注意す可き
ことならずや。

▲日本人は何故短少なるか 支那人の内て相當の教
育があるものでも事理が解せぬには困る奉天將軍の
許に或る州の知事から意見書を奉つた其中に斯う云
ふ事が書てある森林を早く伐採せぬと人間の丈行が
少くなる何故かと云ふと森林の中には虎の如き猛
獸が居るが爲めに之を人間が懼れて其度ひに膽が少
くなる膽が少くなると身の丈げも短くなる日本には
森林が多いから日本人は身の丈げが少いではないか
と云ふ結論の意見書であつた(奉天省農林學校教頭
三戸章造氏の談話)

割 烹

石井泰次郎

中皿 菊冬爪
ふじまめ 新生姜

いなは、鱗をよく去り、背の方より開き、はらわ
たを取り去り、骨も取り去りて、水にて洗ひ、薄
鹽をわてて少しの間置き、又ざつと洗ひて、腹の
所へ、煉味噌をつめ、二つに合せて、蒸籠に入れ
てむし、あたゝかさうち器にもりて出すべし。
煉味噌は、味噌を去りて、うらごしになし、鍋
に入れ、砂糖 みりん、水等を加へ、木杓子に、
てよく煉りたるものなり。かたさかげんに煉り
冷して魚に詰むるべし、

冬瓜は洗ひて、堅切に一寸四分幅に切つて、其一
切の兩端の曲りたる所を切り去りて、上の皮を厚

く剥き、中のたねをも庖丁刀にてすき取て平たくなし、次に四角形に切りて、薄刃庖丁刀にて極めて細かに、端の方より打ち込みて、又取り直して網の目のやうに十文字に細かに打ち込むべし、さで水にこれ、水を加へて流して、鍋に入れ、湯煮十分間すべし。

湯煮したるを、一つ宛水に取り入れて、冷やして馬尾師のうらなどに上げて、雫をよく切りて、味淋、砂糖、酢と合したる汁の中に漬けるなり、味淋酒は、鍋に入れて、炭火にかけ酒氣のぬくるほど（温火にて五分間）煮切りて用ふべし。

砂糖は、鍋にいれ、水少し加へて、炭火にて煮とかし、絹ふるひにて漉して、味淋の中に入れ、酢は鍋に入れ、鹽を加へて、三分間煮かへして、是も味淋の中に入れ合せて、

右の冬瓜を漬け込むべし、早く用ふる時にても三時間置かねば、味つかぬなり

蕃椒の赤きを輪切に一分位づゝに切つて、中の核

を細串にて抜き出して、水にて洗ひて、雫を布布にて拭ひて、漬け込みたる中に入るべし。ふじ豆は、筋をとり、水にて洗ひ、鹽湯の中に入れて湯煮し、馬尾師のうらなどに打ち揚げ、水氣を切りて置くべし

生姜は、よく洗ひて、莖を二寸五分ほど付けて切り、皮をくるとむきて用ふ

酢もみ大根の拵へ方

大根を洗ひて、一寸二分餘位に切り、三分内位に堅に切りて、又は四方を切てのちに三分内幅に切るべし）それをうすく短冊形に、薄刃庖丁刀にて打つて切り、水にざつと入れ、水を切り置き、次に鉢に入れて、鹽をいれ、手にて揉みて、次の酢をいれ、者にて、かきめぐらし、鹽酢とも多く入れず、たい味のつくほど）皿に取り上げて、胡麻味噌にて和へて、小皿に盛り分けて出すなり

胡麻味噌のこしらへ方は、胡麻を馬尾師に入れてふるひ砂を去り盆などにうつして、塵をえり取る

べし
次に焙燥を炭火にかけて温め、胡麻を入れて、木杓子などでかきまわして炒るべし、それを摺盆に入れよりくねばり氣いづるほどにするべし、それよく馬尾篩の底の上のせて、木杓子にて、下に皿を置き其上におつるやうにすべし。次に味噌を摺鉢に入れて、摺り、馬尾篩の裏のせて漉し、鍋に入れて胡麻の摺りたるも入れ次に砂糖、水を入れて、木杓子にてませ合せ、火にかけ煉りはじめ、次に味噌も入れ、煮つまりてどろろとなるをなほ煮込みよく煉るべし
右煉れたる胡麻味噌に大根を入れて和へるなり

女學校に於ける家事科に就て

京都 河口 愛子

女子高等師範の親友よりもらひまして御會御發行の婦人と子供を今年の一月より拜見いたして居ります。誠に結構な雑誌で私はいつも着するのが待遠い位であります。此度は四五と二ヶ月分同時にもらひまして早速拜見いたしました中に將來の家事教科と申す題にて高等女學校の家政科を始め裁縫科并に料理法などの教授の方法につきて種々かいてありましたので私も大に感じました。それで其の雑誌に書きならべてありました小言について思ひ出しましたのは私が修業いたしました學校の事でございます。そこで此學校の私等の時代の有様と今私の教鞭をとつて居る女子手藝學校の有様を少しお話ししたいと存じます。若し萬一少しでも皆さんの御參考にもなりましたら此上もない幸と存じます。勿論時代後れの上淺學無經驗の私ですか

ら左様御承知をくださいまして御推讀の程をお願ひ致して置きます

まづ私の女學生時代の九州地方の女子教育の有様を少々お話しいたしますが最早二十年前の事でありまして此當時の九州地方は、まだ女子の學問は少しも進んで居らないどころか、ひどいことには相當の身分の方が女が學問を爲せば、なま意氣になりて親の意見も兄弟の言ふことも耳にせず嫁入さすれば、主人をお尻に敷いて舅姑小姑などとは三日も同居はできぬなどと證據もないこと言ふて女子は高等小學校さへ卒業さする親さんは稀で郡部などは一郡に一人もない位でありました私は腹が立たたまりませんでした、けれども私は幸に父母のお蔭で四十人の男子の中に一人まじりて高等小學も卒業いたしました此年迄は近郡四郡中に女子は一人も卒業はありませんでした今と比べて見ますれば實に大違ひであります、處で近隣から私の父母を馬鹿とか目くらとか、ものずきとか

悪口言ふて實にきかなれいやうでした、けれども元より私の父母は意志が堅いので人のかげごとくには少しも頓着いたしません、ただ私にいつひかしの女大學のことを、さかせて居りましてもわたくしも勿論三度お飯を一度位はたべなくてはたたく私も勿論三度お飯を一度位はたべなくては學問や技藝が習ひたいので小學卒業後また願つて家から八里も離れて在る熊本市の濟々鬻附屬女子學校に入學させてもらひました、すると近隣の人々は、ますます悪口を申すけれども父母も私も笑つて居りまして、とうとう三年目に卒業いたしましたして間もなく十人家内の河口家に嫁しまして最早十七ヶ年になりましたが今に姑小姑と同じ居いたしてあります此十人と申すのは祖母、舅、姑、主人、義弟一人、義妹三人、下女一人、下男一人でありました其後私も五人の子女を産みました姑も亦一人の男子を産れまして一所に居りますので他所の人は母の子供か私の子供かわからぬ位でありました又永い年月の間には祖母も舅も

主人も歸らぬ旅に逝かれまして今は姑と義弟二人
 義妹二人義子一人實子男二人女一人と合計十人家
 内同居いたしてあります弟妹子女の八人は昨今學
 問修業中でありますので私も此姑を安心させま
 して八人の弟妹子女を、それぞれ自活の道につけ
 るまでは、と一しても死なねぬと、一生懸命にき
 ばつて居ります、あーとんだ、よこみちにはいり
 まして誠にすみませんでした
 前にお話いたしたいと申ました學校は此熊本市の
 濟々鬻附屬女子學校であります此學校は今尚綱
 高等女學校と改正されてあります此濟々鬻は今の
 熊本縣立中學校の以前であります、まだ此當時は
 高等女學校の公立はありませんでした高等女學校
 程度の私立女學校は此附屬の女子學校だけでした
 學年は四ヶ年程度で高等小學二年修了が一年級に
 入學できますので今の高等女學校と同じでありま
 した學科目も同數位で學科の程度は今よりかへつ
 て高い位でした英語なども馬鹿に進んで居りま

した生徒数は學籍百三十人位でした市内の各方
 が多いので寄宿舎生は僅か二十六人でした此寄宿
 舎生は肥後の國十五郡中より集つた者でございま
 した校長は矢張今の校長で内藤儀十郎と申あげま
 す白髪の老先生で例のハイカラ的は大の禁物
 で女は女らしくて意志が堅くて質素儉約が大の
 〳〵お好物で御ざいました其の上前に申しました
 通り地方一般に女子教育がひらけて居りませす一
 般の人々がただ女學校の悪口を言ふ〳〵と、ねら
 んで居りましたので校長は勿論他の諸先生も例の
 肥後氣質の上に嚴重で嚴格で生徒はまるで、くく
 られて居るやうな氣持でした然し生徒は大に元氣
 でした其嚴重なことを一寸申て見ますれば通學生
 は別にして寄宿生は舎監の先生と同行でなければ
 昇校の外は一寸も外出は出来ませんでした又親
 兄弟から來た手紙でも先生の目前で披て見るやう
 に致して居りました尤手紙は一應先生の手に渡
 りてからでなければ生徒は貰はれません此他のこ

とは御推しを願つて置きます

學科は裁縫は勿論家事科の如き科は皆實踐的に教へてもらひました、そこで通學生の方々でも家に歸れば早速お母さんの手助けが出来ると言つて親さんは皆喜こんで居られました私は遠方ですから寄宿舎にお世話になつて居りましたが寄宿舎は勿論出来る限り實踐致して居りました、これから寄宿舎の有様をお話致します

寄宿舎は校外で學校より二三町離れし故佐々友房氏の留守宅で舎監の先生は國友、櫻田兩先生と佐々氏の御夫人とのお三人でありました然し舎監専務ではありませんでした誠に嚴格なく御方々で何となうこはくてたまらないやうでした然しなか／＼やさしく親切深い御方々で吾々寄宿生二十六人は我が子のやうに愛して戴いて居りました又病氣の時などは親兄弟も及ばぬ位にして戴きました、そこで生徒も親のやうに思ひまして何事も先生には打わけて居りました又時としては親にも言

ひ兼ねるやうなことで先生には御相談申上ぐる位でした、これは校長初め他の先生方も皆此様にありましたそこで其先生方の御恩は今に忘れられぬのみか今の現金主義の先生にくらべて見ますれば益々尊敬の心が深くなつてまいります

此寄宿舎では舎生の中ト級生の年長者より毎月交る／＼一名づつ生長をたてまして會計其他の取締りをさせて其責任を負はしむるように(舎監の指圖を受け)致してありましたので生長になりました時は丁度新家持のやうな氣持で随分やせる位氣骨が折れまして其任が無事に済ますとやれ／＼と大息ついて安心致す位でした、ところで舎監の先生と生長と立會致して其月の豫算をたてて其全費用の合計を舎生の二十六人に割當てました月初め一日に其金額を生長に納めて置くことになつて居りました、そこで生長は其月の一日から金銭出入の帳簿取扱ひや(家計簿記を應用)ら寄宿舎日誌やら其他の取締りなど丁度主人のない主婦のやう

でなか〜いそがしくおりました

借其一ヶ月の豫算はかぼろげながら、ちとお話致
 しませう。尤普通一家の經濟は收入に應じて支出
 を定むるを原則と致しますれど此寄宿舎は學校の
 ことですから國家の財政の如く支出を定めて然る
 後に其金額を徴收致します然しながら十分出來得
 る限り節約して豫算をたてることにしてありまし

左の通り

豫算案(明治二十三年度ノ一ヶ月分)

賭 費	一八七二 <small>圓</small>	(米七合ニ粟三合ノ割合)
米、粟代	九、八〇	(魚肉其他豆腐)
惣 菜	五、二〇	
薪、炭、油代	四、五〇	
味噌醬油	一、三〇	
舍 費	一、五六	
器 具 費	一、〇四	(四回分)
親睦會費		

合計金四拾貳圓拾貳錢

一人分 一、六二一

右の通り一人分一圓六拾貳錢を生長に納めます此

外に一人分

月 謝	二五 <small>圓</small>
學 用 費	三〇
雜費小遣費	三三
合計金	八八

依て一ヶ月の學資總て貳圓五拾錢にて十分でした
 勿論物價も二倍位に騰貴致して居りますれど今日
 の女學生の學資と比べますれば實にお話になりま
 せん此様に致しまして生長は月末に一ヶ月間の出
 入を計算致し舎監の檢閲を受けて翌月の生長に惣
 ての會計を引渡します若し月末に豫算より少々で
 も余りし時は豫備費に致して置きます又足らぬ時
 には豫備費より辨償致すことになつて居りました
 又臨時の支出は臨時に徴收致すことになつて居り
 ました

賄方及び掃除などは日々三人づつ當番になつて居りました賄につきましては其月の生長が一週間分づつ献立をなして舍監の檢閲を受け炊事場に掲示して置かしまして當番の者は毎日其通りに賄を致します其献立の一例を左に掲げてお目にかけませう

春期 一週間分の献立

日曜 朝 粟飯 味噌汁(細ノ目豆腐ト) 香の物(若菜ノ)

晝 同 澤庵漬と梅干

晚 同 煮附(魚肉ト) 香の物(澤庵)

月曜 朝 同 味噌汁(干切大根ノ) 香の物(朝漬)

晝 同 味噌汁(干切大根ノ) 香の物(朝漬)

晚 粟飯 味噌汁(干切大根ノ) 香の物(朝漬)

火曜 朝 同 味噌汁(ノギザミ) 香の物(朝漬)

晝 同 味噌汁(ノギザミ) 香の物(朝漬)

晚 粟飯 清し汁(鹽魚ノ出シ) 香の物(澤庵)

水曜 朝 同 味噌汁 香の物(朝漬)

晝 同 味噌汁 香の物(朝漬)

晚 粟飯 味噌汁 香の物(朝漬)

木曜 朝 同 味噌汁(卵の花ト) 香の物(朝漬)

晝 同 味噌汁(油揚豆腐ト) 香の物(朝漬)

晚 粟飯 煮附(里芋、こんに) 香の物(朝漬)

金曜 朝 同 味噌汁 香の物(澤庵)

晝 同 味噌汁 香の物(澤庵)

晚 粟飯 漬し汁(竹輪ノ小口切) 香の物(朝漬)

土曜 朝 粟飯 味噌汁(揚ゲ豆腐ト) 香の物(朝漬)

晝 同 味噌汁(揚ゲ豆腐ト) 香の物(朝漬)

晚 粟飯 わへ物(ゆで大根) 香の物(澤庵)

そこで當番にあたりました日は三人とも朝暗いうちから起きまして私は年長でしたから、いつもはだして働いて居りました二十六人分のお飯を炊くのですから朝は五六升晩は三升斗りも炊きます、それで當番の三人は四時か四時半頃には必ず起きまして一人は顔を洗つて釜に水を入れ火を焚きつけて竈の前で冬などは暗いところで鏡も見ずに手さぐりして髪を結びます、すると湯が沸くまでには結構結んでしまします一人は其間に顔を洗ひ

米を洗つてお釜に入れます一人は顔を洗つて味噌を摺りて汁を作りませす、それから二人は髪を結びませす初め火を焚きつけた者が其間にお飯と汁をでかしますすすれば大抵時計は六時を報じますので當番の手すきの者から柏子木を打ますと皆同時に起きまして床をあげ顔を洗ひ髪を結びませすそこで舍監の先生に挨拶を述べに揃つて参ります其間に當番の者一人は膳をならべ飯をよそひ一人は汁をよそひて柏子木を打ますと皆集りて食事を致します二人の當番はお釜で給仕を致します残り一人は部屋の掃除を済し辯當をつめてならべて置きますそこで皆々は食事がすめば直に用意の學用品と辯當を携へまして舍監の先生と共に學校に参ります當番の者は三人にて大急ぎに食事をすまし洗ひすすぎを終りまして急いで學校に参ります午後も亦授業がすめば皆さんより早く急いで歸りまして夕食のお飯やおまわりをこしらへ洋燈の掃除をいたします晩飯は五時にきまつて居りましたで五時ま

でに用意をなして又朝の如く給仕をして食事をすまし、あとをかたつけまして洋燈に火をともします八時から十時までが復習時間であります十時がなつたら舍監の先生に一人く挨拶致しまして寢床につきませす當番は戸締りをなし火をけして寢床につきませすこれで其日の當番の役は済みました翌日から七日間はお客の様です又漬物の澤庵をなす時期には臨時其費用を集めまして大根や鹽など買揃へまして舍監の先生に習つて漬けます冬の寒ひ日に裾をまくつて白川に膝まで入りて漬物桶など洗ひしことを思ひ出しますれば今の女學生方は氣樂なものと存じます然し私は其氣樂には感服致しません女學校を卒業する前には必しも家事の事を出來得る限り實踐してもらひたいと希望致します私等は此様な故習を受けましたので學藝は勿論お飯を炊く事から洗濯すること家事經濟のことまでもすべて學校で習ひました今とは大分相違があります勿論生徒も少なひのでそれほどよく行き届

いたものかもしれません
これから今私の教鞭をとつて居る女學校のことを
少しお話しいたしませう

前に申通りの教育を受けて来た私ですから今は今
の風潮に多少は従ひます大體は前に受けた教育
のしかたにして學科は學校で教へたことが皆家庭
で實行してそれ／＼結構間に合ふやうに教へたい
と云ふことが私の第一の希望であります

私は五年前に此京都に参りまして其年から昨年の
三月までは市内の女子手藝學校に勤務致して居り
ました昨年四月に是非ともと招聘されました京都
市より二十四五町東北に離る松ヶ崎村に在る愛宕
郡第一高等小學校の附設女子手藝學校に参りまし
た此學校は昨年の四月に淺學未熟なる私に教室教
具の設備から教科書及び教材の撰定より教授細目
に至るまで皆一任されました大に心配致して居り
ましたが教員は小學校には十人余りも居られまし
たが手藝學校には校長より外は私一人でしたから

何の遠慮もなく私の理想通りに致しまして今に勤
續致して居りますすが其愉快さ何ともたとへやうは
ありません少々自宅で氣分がわるくても二十四五
町もある野道を歩きまして學校に参りますと何時
の間にかあしき氣分はなくなりまして生徒は昨年は
創立の際にて二十四五人でしたが今年は八十人余
りになりましたそこで只今は二人で教授致して居り
ます

學年は三ヶ年程度にして補習を一ヶ年置いてあり
ます入學者の資格は高等二年修業の者でなければ
入學出来ませんですから高等女學校と同じです只
定員がまきつて居りませんので撰拔試験がないば
かりであります
科目も一二年は高等女學校の科目數と同じであり
ます三年級は家事、裁縫、手藝、國語、算術、修
身の六科目で補習は修身、家事、裁縫、手藝、生
花、茶の湯の六科目を教授致します此中私の教科
は修身、家事、裁縫、手藝、生花、茶の湯の六科

目であります此私の教授のあらましをお話し致しますませう

前以て一寸お断り申ておきたいことは市近くと申ましても兎角田舎はいなかでありますので土地の情況を斟酌して教授致しますので都會にはあてはまらぬこともあらうと存じますからどうぞ其へんは御推讀を願ひます

一、修身 一週に一時間

教科書は生徒には持たせません

私は一に道徳二に身体三に學藝と重きを置いております又一方に於ては進取的新思想を入れると共に他方に於ては亦務めて舊來の女徳を保つことに十分意を用ゐて教授致して居りますすると生徒もだん／＼よくなつて參ります僅か一ケ年余でありますが昨年の四月頃と只今とは大差であります一寸言ふてみますれば昨年の頃は全体に生徒が輕卒で又冷淡でありましたが今年になりますと余程沈着になりました又一寸生

徒の一人が病氣でも致しますれば學校では親切に又熱心に看護をなすとか又家には度々見舞に行くとか又私か一寸病氣で一日も欠勤しやうものなら二十四五町もある所を暑かろうと寒かろうと少しもかもわす見舞にきてくれますやう誠に愛らしくなりましたか私も大に楽しんでおります

一、家事 一週に三時間

家事も田舎のことですから斟酌致しまして教科書は持たせません講話的問答的に教授致して居ります 其順序及び大体は後關先生の増訂家事教科書と私の實驗して參りましたことに依りて致しまして要項のみ記筆帳に筆記させます又漬物とか料理法などは教科書の順序はかまいません其時節に應じまして實物のある時を撰んで教授致します譬へば梅干の漬方は入梅の頃即ち梅の熟する頃に實物につき細かく教へます又茄子野菜もの調理法は丁度前月頃に教へるやうに致しまして極めて卑近のことから教へますので生徒

が家に居つて早速實地に復習することが出来るばかりでなく其晩のおまはり結構此料理で間に合ひます

又着物などは汚れた儘のを持ち來らせまして學校で解き方を教へて解かしめ洗濯用水の作り方及び洗濯の仕方を教へて洗濯させ綴ぎすべきものはつぎ方を教へて綴がしめ端縫ふべきものは端縫の仕方を教へて端縫はせ糊の作り方を教へて糊を作らしめ端縫ひし物は簇にて糊張の仕方を教へ又板張は板への張方を教へまして糊張が出来ましたら各寸法に依り縫はしめ仕上げをなさしめて始めて家に持ち歸らしめます此様に教へますれば次の目には最早生徒が獨りで出来ます

又絹物などで湯のしを要するものは實際に湯のしの仕方を教へます

又女袴とか紅裏とかで褪色しましたものはそれ色染法を教へて染めさせ雛を申し仕立上

げをなさしめまして家に持ち歸らしめませ

又大の古き袴を小の袴になすとか單衣のお古に裏を附けて綿入や袷になすとか羽織のお古を袴纏になすとか姉のお古着を妹の着物になすとか其他種々様々に廢物利用の方法をも教へますので田舎のこととて母親たちは猶更父親までも大いに喜んで居られるそうです或日出勤途中一人の生徒の母親に出會ひました處が其親さんが言はれるのに(前略)先生是迄は一寸色上げや、ゆのしや簇張などしやうものなら半日暇をつぶして態々京都の悉皆屋まで頼みに行つて三度位は必らず催促に行きましたおまけには高々とか金を取られて居りましたのに此頃は學校で何もかも故へてもらいますので誠に結構で娘は仕合せ者であります又一生身の寶でありますなどと云つてお禮を言はれたことがあります信實を以てすれば、やはり其功があらはれると思ひました

一、裁縫 一週に二十五時間(但し三年と補習のみ)

裁縫はなるべく其材料は古きものを持たせませす
新らしき品になりませすれば初めから其方法を教

へて生徒に裁たしめませすそこで縫方をよく覚え
ます時には裁方も積り方もよく覚えて居りませす
なかには鈍い子供も居りませすれど十人の中九人は
左様に出来ませす誠に楽しいものでありませす

一、手藝 一週に二時間

手藝も實用品から教へませすたとへば編物なら巾
着、靴下、手袋、頭巾、涎掛などで造花なら花
簪、佛花、子供帽子の飾などで刺繡なら繻絆の
半衿、服紗などと教へて參りませす

一、生花、茶の湯 一週に一時間

生花、茶の湯などは決して深くは教へませんた
だ其道だけを教へませして如何なる場所に出會し
ても恥を受けぬだけにとどめておく積りです尤
私もそれ専門でありませんので余り深くは存じ
ません

5
まだ作法のことなどもありませすけれど余りながく
なりませすので先づこれ位にして止めておきませしや

女子と體育 寺田勇吉

我國の女子の體格は男子よりも遙に劣つてゐる、其劣
つてゐる差が西洋の男女の差よりも甚しい。それで一
帯人の丈夫な廿歳頃から四十歳位迄の間の男女の死亡
率を比べると、男の百人に對して女の百廿人といふ率
を、してゐる、此差の西洋の男女の差よりも甚しい。
西洋では此年齢で男女死亡率の差は百人に付て二三人
であるのに、我國では百人に就て廿人といふ多数を示
してゐる、其死亡原因は月經妊娠出産など女子に取つ
て危険な時代であるのも其一つであるが、其大部分は
からだが弱いからである。此不幸の差し響く處は決し
て些しでない、理想の家庭は爲に破れ、夫は後妻を迎
へねばならぬ、子供は繼母を戴かねばならぬ、家の裡
に波風が起つて悪童ができる、日本の女子の弱いのは
其生活法が宜しくなく、一年三百六十日家に許りひつ
込んでゐて運動する機會が甚だ乏しいからで、偶に外
出しても衣服履物等すべて身體の操縦に少からぬ不便
があるからである(教育時論)



傘屋のおぢいさん

硯山子

むかし〜或る田舎の小さな村に一軒の唐傘屋が
 ありました。此家のおぢいさんは毎日〜お天気は
 かり気にして少し曇りでもすると百年も日が照ら
 ないかの様な氣になつて早くお天気になつて、そ
 して、なるたけ風が澤山吹けばいゝなと云つて居
 りました、たとひお天氣が百年續いて雨が一寸も
 降らず田や畑が乾上つてお米も取れず大根も出来
 ないでも、自分の家の唐傘さへよく乾けば少しも
 困らないと云ふ風で誠に慾ばりな、そして自分勝
 手な人でありました。

或年のこと夏の初めから暑さは焼く様で毎日々々
 赫々と照り續いてちつとも雨が降らず、おまけに
 毎日〜風がフュー〜と吹き續けて居りました

ので傘屋のおちさん大悦び。

「是でこそ豊年ぢや今年は傘が澤山出来るぞ、そしてウント儲けて遣りませう」として

一人言を云つてはくく喜んで居ました。

さて或日のこと朝から大變な風で、外は埃り塵とで往來の人は目が開けない位でありました。が悦んで居るのは傘屋のおちいさんばかり

「いゝぞく斯う云ふ風でなくては傘が乾ない、

ドレ今日は澤山波して遣らうか」と云ひながら出したく此間中から造しらへ溜めて居いた唐傘をウント出して、皆廣げて干しました、けれど風が強いのでいくら縛はつて置いてもちぎりに飛んで行つてしまふには流石のおちいさんも弱りましたのが暫く考へた末

「ア、いゝ事がある斯うして遣らう」と云ひながら干してある傘を何れも是れも皆細引でしばつて其端を集めて自分の帯へ確かりと縛はつてしまいました。して「ア、是で宜しい、斯う

して置けば飛んで行つても直ぐ判る！」と言つて居りました。

スルト一時間も経つたかと思ふ頃、裏の松山の上から恐ろしい風がゴ—と云つて吹いて來たかと思ふ間に澤山の傘が一時に飛び出してフ—と空の上の方に吹き上げられました。おちいさんは傘の端に結ばつて居ましたからたまりません。「ア、く」と云ふ間にブ—イと天竺の方へ吹き飛ばされて行きました、家のおかみさんや隣の田吾作さんはアツと云つたまゝ、呆氣に取られて見て居る丈けで何うとも仕方がありません、其中に傘屋のおちいさんは雲の上のく上の方へ傘と一所に飛ばされて遂に鳶まりも小さくなつてしまいました。

是を聞いた村の人は
「ア、何うも悪いことは出來ないものだ、何うだ傘屋のぢいさん、あんまり自分勝手ばかり祈つて居たものだから、遂々罰が當つて大風に吹き飛ばされてしまつた、多分今頃は何處かの谷へ

吹き落されて岩に打つかつて死んでしまつたら
う、可哀相なものだ」と噂さをして居ました。
此方は傘屋のちいさん風に吹き飛ばされて雲の上
に空で見ると、廣い原の様な所で何方を見て
も何んにもありません少し歩いて見ると其處に雲
の切れ目がありましたから、そつと窺いて見ると
遙か下の方に富士山が見える様ですが其外の
山も池も畑もトント判りません、見て居る中にゾ
ットして來て今にも落こちそゝですから急いで退
いてしまいました。

だんく歩いて行くと何處迄行つても家がありません
其中に日が暮れかゝてあたりが暗くなり始め
ました時、遙か向ふの方に燈火が見えました。

「オヤ、家がある様だ、早く彼處へ行つて止め
て貰らうと、獨り言云ひながら急いで行きます
と小さな茅葺の家でした。そして門口に小さな
表札が掛けてあります。見ると「かみなり」と書
いてあります。

「オヤかみなりとは妙な名前だな、一体此處は何
んと云ふ所だらう」と云ひながら

「御免下さい。」と云ふと

「ハイと云つて可愛らしい聲がして可愛らしい女
の子が出て來ました。

「誠に申し兼ねましたが、私は風に吹き飛ばされて
參つたもので御座います、何うぞ、一晚お宿め
下さる譯には參りますまいか」と云ひますと其
に女の子は愛相よく

「エ、御入りなさいませ、此處には外に家があり
ませんから晝お困りでせう、お父さんは今留守
ですが宜しう御座いますから御入り遊ばせ」と
云つて呉れました。

傘屋は悦んで家の上つて足を伸して漸く休んで居
る中に主人が歸つて來た様です。そして先きの娘
と話して居ります。

「お父さんお歸り遊ばせお留守に下界から傘屋の
おちいさんが來ましたよ」

雷「ソノカあの慾ばりぢいさんか、道理で今日傘と一所に飛んで居たつけ、時に晩の御飯は何うしたハ」

娘「アノ、人間には飯べられまいと思つてまだ上げませんでした」

雷「それでもいゝから飯べさしておやり」と云ふ話が聞えました、暫くすると先きの娘が出て来て

「お容様御飯を召し上がれと」云ひますから後をついて行きますと大きな爐の傍にお膳が出て居ます、何の氣なしに其向ふを見ると是は恐ろしい畫にかいた雷り様と同じ様な角の生へたこはい鬼が虎の皮の上にあぐらかいて座つて居てギラ〜と光つた目で睨んで居る様です。傘屋のおぢいさん之を見て喫驚仰天してドシンと我知らず尻餅をつきました、雷様の笑ひ聲と娘のやさしい聲で

「私のお父さんよ、恐はくはなくつてよ」と云ふ

ので漸く安心してお膳の前に坐り雷様に挨拶して御飯を戴うとしまして先づお茶碗の蓋を探るとコハマ何のことでせう、御飯だと思ふつたら細かい石ころです、次にお平を開けて見ますと是は又何んだか田にしの煮ころばしの様なものです、何んですかと娘に聞いて見ますと人間の子供のお臍佃煮だそをです。イヤハヤ迎も食べられた代ものではありませんが、何か外に無かるるか、向ふにあるのは何んだらうと見ると赤いきれいな色をしたお刺身です、何んの刺身ですと聞くと虎の肉の刺身と云ふ、仕方がないから

「まゝ是でも食べて見様と一口食べましたが堅くてまづくて迎も食べられません。お腹はすいて居ますが仕方がありませんからいゝ加減にして止めました。

「御馳走様」と云ふと雷は聲を掛けて

「何うだねおぢいさん。風が吹いてよかつたらうそして此處の御馳走は甘いだらう、こんないゝ、

處は外にはあるまい、其上此處はひどい風が吹くよ、それこそおちいさんの好きな大風が吹くよウツカリ外へ出様ものなら雲の上から放り出される位だよ」と云ひますので流石のおちいさんも今日と云ふ今日は閉口して

「ア、何うも今迄自分勝手なことばかり考へて居て誠に悪う御座いました。もう是からは決して自分勝手なことは致しませぬ。雷様御情で御座います。何卒私を下界迄御連れ下さいますし」と頼みますと、雷は笑ひながら

「ハ、ハ、夫れは出来ない。私は下界には行かない。うつかり行かうものなら歸れないもの、おちいさんも可哀そうだが仕方がない。自業自得だ。今更悔んでも仕方がない泣いたつて笑つたつて歸れやしないよ。まああきらめて私の手傳ひでもして居いで、其中には又時機もあらうからと云ふのでおちいさんも家に残したおかみさんや子供の事など考へて、泣いて居ましたが

仕方がありませんから觀念して雷のお手傳をすることに致しました。扱て翌朝になつて朝飯をしまうと雷は仕事に出掛ける仕度です。見れば大きな太鼓を背中に負つて四つの手には夫れ々々大きな撥を持つて居ますし腰には石ころのおひすびに臍の佃煮の御辨當を持つて居ます。そして

「おちいさんサア行かう、是を持つて来てお呉れと云ふのは何かと思つたら大きな風呂敷包みです」是は重いなと思つて持ち上げて見ると何の存外軽くつて丸で風船玉の様ですハテ不思議なもの、何んだらうと思つて

「雷様是は何んですか大層輕う御座いますね」と云ひますと、

「ソーサ夫れは風と雨の袋だものそれを開けると風が吹いて雨が降るのさ」と云ふ事です。ソコでおちいさんは風と雨とを降らす役目になりました。是からおちいさんは雷の後をついて歩い

て雲の切れ目を見ては雷が太鼓を叩くとおぢいさんが袋の口を少し開けて風を吹かせます。見て居ると下界では遠かの夕立に大騒ぎ、下女がはたしで飛び出して干し物を仕舞ふ家もあれば傘がないので頭を縮めて走る旅人もあります。

おぢいさんは面白く／＼と悦びながら段々歩いて来ると又一つの切れ目がありません。何の氣なしにのぞいて見ると丁度いゝ事に自分の村の眞上なのでおぢいさん我知らず聲を出して

「ア、私の村の上へ来ました、雷様御覽なさい、彼處が私の家です」など話して居る中に

おぢいさんは心の中で此間中からの村の早魃の事を思ひ出して

「ウ、い、事がある村の人に此處で雨を澤山降らして遣らう」と思ひながら、雷様に

「雷様、私の村では此間から早魃で困つて居ますから此處で澤山降らせて遣つて下さい」とお願い

ひをする

「ウン宜しい、けれど袋の口は少し開けるんだよそして今迄よりは少し長く降らせればソレで澤山だ、それからおぢいさん氣を付けないと落ちてぢるよ」と云ひました。けれどおぢいさんは

「なんだ、けちな雷だな、村ではもと二月も三月も雨が降らないで困つて居るんだ。構ふものかだまつて袋の口を大きくして澤山降らせて遣れ」と口の中で云ひながら雷の鳴るのを待つて居ると

雷「サア支度はいゝかへ始めるよ」と云ひながら腰の火打石をぴかりと光らせて太鼓をゴロ／＼と打ちます、おぢいさんはソレ来た」と袋の口を下に向けて口一杯に廣げたから大變、そこら中の雲も霧もフーッと吹き飛ばされおぢいさんは眞倒さま地面へ向つて落ちて行きました。

下の村では又エライ大きな雷が鳴つたと思つたら恐ろしい強い雨でザツと云ふ勢は丸で瀧の落て来るかと思ふ様で今迄乾ききつて居た川も池も忽ちに溢れだして田も畑も一時に押し流しそれでも

止まないで家でも倉でも木でもお宮でも皆んな押し流しました、何にしる俄かの水ですから何うにも仕方がありません、可哀そうに村の人は大概家と一所に押し流されて猫一匹残つたものはありません。頓がて雲が晴れて日が照り始めた時に見るとなさないではありませんか今迄然しも立派な村であつたものが一面に泥だらけな原になつてしまいました。

丁度此村雲から吹き落されたおぢいさんはドシンと云ふ音と一所に此野原の真中へ落ちて來まして暫の間おぢいさんはウン」と云ふたきり氣絶して居ましたが頓がて氣が付いて見るとあたりは泥の原で家は勿論の事木一本草一つありません、おぢいさんは

「オヤ、厄介な所に落ちたもんだ、何うせ落ちるなら自分の村か自分の家の前へでも落ちればよかつたな」など、又しても自分勝手な事を云つて居ましたが、何しろ方角も何も判りません

からい、可限に歩いて行きますと向ふから大勢の人がガヤ／＼云ひながら遣つて來ました。見ると一番先きに立つて居るのは隣り村の親類の佐平さんです。おぢいさんは喜んで

「コレハ、佐平さん、いゝ處で御目に掛りました。私の村へ行くには何う行のですか」ときゝますと佐平さんは驚いたの驚かないのつて尻持つくばかりに驚いて

「ヤ、傘屋のおぢいさんぢやないか、お前さんは此間風に吹き飛ばされて、も居ないと思つたのに今迄能く生きて居ましたね。それはそをと先きの暴雨はマア何と云ふ強い暴雨でせう。おぢいさん、此處がおぢいさんの村ですよ」と云はれても一向譯が判りません。段々と話を聞いて見ると先きの雨で自分の家もかかみさんも子ども皆流されてしまつた事が判つておぢいさんはオイ／＼聲を上げて泣きましたかもう追つ付きません。遂々此ぢいさんは佐平の家の厄介者になつて淋しく一生を暮すことになりました。

名家言論

●日本の家族制

(嘉納治五郎、愛國婦人)

論者或は家族制を不自然と云つて此風俗を破り西洋風に改めんと主張する人もあろうが其主張の可否は別論としても日本從來の風習は容易に改まるものではない家族制は容易に改められぬと云ふばかりではなくこれには又長所がある家族制では原則として老人と若い夫婦が同居することになる同居すると縁として隣分氣兼ねもあらうが老いて心細くなりし人を大切にしてく慰籍するとは人道の然らしむべきことであらう老人は又活氣ある若い者と同居し其上孫でも居るとこれを大なる樂とし餘程慰籍されて居る子供の爲にも兩親に代つて眞の情を以て世話してくれる祖父母のあるとは非常な仕合である

西洋では若夫婦は老人と離れて獨立の生活を爲し世に多く望みを持たぬ老人を構はぬ風がある老人を顧めんと云ふことは日本人の情としては甚だ忍び難いことである、英國などで孫子供にも孫にも構つて貰ふことの出来ぬ憐れな老人が澤山あると云ふことである之は全く個人制の弊害であると思ふ之に比すると日本の家庭は圓滑に行つて居るのであるこれは從來の女子教育の御徳である

●家庭教師に就て

(寺尾博士、愛國婦人)

今や國家の新勃興に際し家庭の如きも亦大に奮時と面目を一變するの必要を認むるの趨勢となつて居る境言すれば國家の進歩

は更に家庭の進歩を促すの理である即家庭に子女教育の面上進歩に特別の注意を拂ふは時代が要求する教育特に其國家の必要に順應する新教育の勃興を意味するのである然る、吾國に於ては未だ家庭教師を聘用して完全に子弟の教育を依託したるものは少ないのである島津公爵家に於ては先年然るべき英國婦人を聘して同家の家庭教師として居らるるとのこと此英國婦人は曾て某皇室の家庭教師として名ありし人なり同家に於ては此婦人に託するに子弟教育の全權を以てし他の人には全く關與せざるもの、如くして専ら此婦人の指導に頼らしめてあるものにて其成績亦從て良好の由であらう其他の華族又は富商家等に至りては自分は不幸にして未だ家庭教育に付良好なる成績の擧りつゝあることを見聞することが出來ず居る是れ大に家庭教師たる被雇者の努力才氣に於ても又人格に於ても中等の人物にして云け、他に賣れ口遠き様な者の採用され居るにも依るのであらうが又一には雇ひ方、於ても一種子守女視して稍々其れよりも待遇をよくして居る位の特實があるそれではとても優良なる家庭教師を聘用すべしと思ふべしと思ふ從て良好なる成績が見えないのも道理である

●職業と人格

(手島精一、新婦人)

東洋では男女に拘らず職業に従事するを以て恥辱の如く心得職業をなせば人格が卑くなるやうに云ふかこれは所謂東洋流の悪い思想であるこれが爲めに工業の發達を妨げて居ることが多くない職業は高尚なものであつて決して卑むべきものでない故に職業に従事するのは相當の人格を備えたものでなくてはならぬ一體技術上の作品は人の精神をそれに打込むで始めて立派

なものが出来上がるのであるから人格の高い人に依つて作られたものでなければ世界の人の需用心を満足せしむることは出来ないのである故に數十年間の経験があつても職工上がりのものではないといふと云ふので私の幹して居る高工工業學校の卒業生を備へに來るものが近來めつきり甚の數を増して來たこれは一例であるが私の所に模範職工として備ふて居る米國人がある常に職工服の汚れたる洋服を着て居ても心は王の如く清く人格と云ふ上に於ては實に見上げたもので器械に對しては總て武士的行動を執り武士が刀劍に結のつくな恥辱と見たる如く器械に甚を出だすは職人として甚だ疎べきことだと云つて仕事にかゝる時も仕事を終へた時も鄭重に器械を拭ふて居る斯くの如きことは甚だ容易きことのないやであつてなかなか出来ないのである故に女子にして職業に従事する上は唯だ技術がい上達すればそれで宜いと云はず善き技術家となるには善き人格を作らねばならぬと云ふことを心掛けこの方の教育を受けることもまた必要である

●日本婦人の改良點

(内藤雄介新婦人)

私の第一に改良したいのは日本婦人の眼であります歐洲婦人の眼に比較すると其發達が數世紀後れて居るやうに見えます形が少なくて光りが薄く且つ端正でない従つて眼を使用する力が薄く眼が文明的に發達して居らぬやうに思はれます第二は鼻であります日本婦人は頬骨が高く出て居て鼻が低く一向立派でありません第三脛の割合に足の短いことであります是等は現代でツ直すことが六ヶ敷か知りませぬが改良することに十分心独改めて居れば決して出来能はぬものではないと思ひます其處でけ先

じて身體上の改良を求めたいのでありますこれに要する第一は衣服であります西洋服は日本婦人には似合はぬと申しますがそれは一時見馴れぬから妙に見へるので見馴れて來れば少しも不恰好なこともなくまた活潑なる動作をなす點から云ふても身體の姿勢を整へる點から云ふても西洋服がよいと思ひます扱て精神上の點に入りましては是また著しき差があります西洋婦人は小さい時がら動植物に對する趣味が發達して居りまして其中でも動物に親んで居りますから博愛の念慮が強く下等動物に親みが深い結果人と人との交際にも自然と情味が深く交際が圓滑に行はれます日本婦人が外國人と見れば敬して遠ざけ出會ふ機會があつても是れを避けるに引きかへて西洋婦人は私共が参りますと種々な手續を求めて紹介を得て参り一度出會ふ紹介人は其方除けにして待遇に勤めます故に自然世界的の智識をも求め得らるゝかと信じます其他私の参りたる各國の國風についての所感を申しますと獨乙は階級制度が盛んで日本封建時代のやうであります英國は平民的でありますが其中に紳士と云ふ鑄形がありまして餘程氣風に善い處があります日本人も眞似するならば英國紳士の眞似をするがよろしひと思ひます

新

刊

東京帝國大學文科大學助教授 東京高等師範學校教授 文學士保科孝一先生新著

改定 假名遣要義

菊判形全一册
正價金四拾錢
郵稅六錢

◎本書は時代の要求に應じて生れたる者◎教育家諸君は速かに一讀を望む。

織田勝馬先生白土千秋先生共著
版六 劣等生救濟原理並方法
正價金六十錢

保科文學士著

修三版 言語學講話
正價金八十五錢

北澤文學士著

增訂 哲學史綱
正價金 壹圓

東基吉先生著

新版 育兒日誌
特製金五十錢
上製金四十錢

金子男爵著

新版 日本教育將來
正價金二十錢

姉崎文學博士著

版二 國運と信仰
正價金 一圓

北澤文學士著

版三 偉人耶蘇
正價金五十錢

笹川法學士著

大觀小觀
正價金四十錢

渡邊子爵著

版三 戰後經營法
正價金三十五錢

北澤文學士宮地猛男共著

哲學汎論
正價金五十錢

發行所

東京樂市町貳丁目田區

弘道館

(號九第卷七第もど子と人婦)
 (行發日五回一月每) 可認物便郵種三第日八廿月一年四十三治明

明治四十年九月五日發行

序 生先了圓上井 士博學文學 生先郎次哲上井 上博學文
 生先子歌田下 院長習學女 生先郎次勇良元 士博學文

編生先治慇山西

畫挿繪口版色三の樂團庭家の伯書折不村中
 摺紙等上來舶頁餘十六百七數紙本美る頗入函裝洋判六四

錢五十稅郵 錢拾九價特 錢十三圓一價正

發行所 辻本卯藏 印刷者 日下主計

發行所 女子高等師範學校内

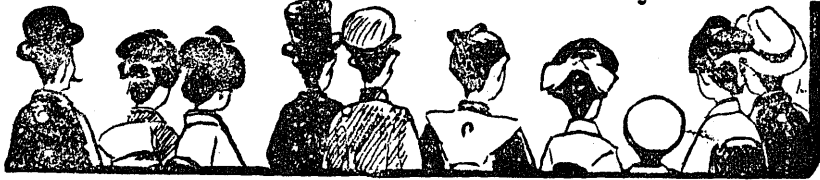
庭家

典寶の代末

家庭問題は今に残されたる社會問題として又戰捷後必
 然に社會の要求する時代急需の聲に應ぜんとせしむるに
 づる家庭の著書敢て動さるに即ち編者此に周到
 ひべし一時の苦抱負を以て本書を編纂せられたれば
 の用意多の零片を充たさる即ち編者此に周到
 家庭は此れに依て光明に浴し新しき福音に接するも
 書からざるを信ず幸に世の流行的一夜作の駄編と同一
 視する勿れ本書の内容は

- 家庭組織
- 結婚制度
- 法律
- 禮式
- 家具
- 料理
- 汚點
- 洗濯
- 縫園
- 藝茶
- 道教
- 育
- 德宗
- 衛生
- 經濟
- 裁縫
- 園藝
- 畜養
- 音樂
- 工藝
- 品

等て最も家庭に必要なる千餘項を
 就て配列し説明するに必要なる千餘項を
 順に懇切くも事家庭に關して細大漏
 庭の顧問たるを期せり即ち本書を家庭必備の寶典として一
 め又教育に熱心なる各學校教育家及び學生諸君の備品として推
 幸に此の好機を逸せず購讀の榮を賜はらんことを
 購讀者有之購求者は編者西山發行所弘道館に注意



所賣發 店書地各 || 局本話電 館道弘 猿田神京東 所行發
 ○四八二